

## 第46回大崎上島町公共交通連携協議会 議事要旨

### 【開催概要】

日 時 令和7年1月27日(月) 13時30分～14時30分

場 所 大崎上島町役場本庁 2階大会議室

出席者 19名

団体名	職名等	氏 名	出席者
広島商船高等専門学校	流通情報工学科教授	岡山正人(議長)	○
さんようバス株式会社	代表取締役社長	土井俊斉	○
さんようバス株式会社	従業員代表	佐村 優	○
尾道地区旅客船協会	事務局長	柳井裕志	欠席
山陽商船株式会社	代表取締役専務	日浦徹治	○
大崎汽船株式会社	代表取締役	川本公夫	○
大崎上島町議会	議長	信谷俊樹	○
大崎上島町連合区長会	副会長	山田泰三	○
大崎上島交通問題協議会	会長	閑田大祐	○
大崎上島町商工会	会長	信谷 裕	○
大崎上島町社会福祉協議会	会長	有田卓也	○
大崎上島町地域女性連合会	会長	田房明美	○(代理 賀川一枝)
大崎上島町観光協会	会長	中原幸太	○
中国運輸局尾道海事事務所	首席運輸企画専門官	築山泉美	○
中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	蔦 真	○
広島県地域政策局	公共交通政策課長	丸石圭一	○(代理 河越信二郎)
竹原警察署	大崎上島分庁舎長	田山陽次	○(代理 岩宮広太郎)
大崎上島町	副町長	小田 博(会長)	○
大崎上島町	地域経営課長	三村竜也	○
大崎上島町	建設課長	藤原通伸	○

傍聴者 無し

## 【議 事】

### 1. 開 会

<事務局より、開会宣言>

### 2. 議 題

#### (1) 報告事項

##### ①高速船運航休止に伴う明石小長フェリー航路の運航回数等について

事務局	<資料説明>
議 長	ただいまの説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いします。
委 員	平日は、通勤通学者等の利用客を想定しており、土日祝については、学校等がないため11往復にするというお話でした。以前、土日祝も12便だった頃があったと思うのですが、その当時の利用データなどは確認したのでしょうか。利用者数の具体的な数字がわからなければ便数は検討できないのではないかと思います。
事務局	令和5年9月の減便以前も土日祝の運航回数は11往復でした。この度についても運航事業者が試算し、土日祝は11往復でもあまり影響が無いということで提示されている便数になります。利用者数についてはあらためて確認しておきます。
委 員	呉市との共同負担について、負担割合は具体的に出ていますか。
事務局	2分の1ずつを想定しています。
委 員	11便の場合と12便の場合での運航経費の違いもあると思います。どのように話を進めていくのか、考えを教えてください。
事務局	これまでは、明石小長フェリーについては呉市が赤字を全額補填し、高速船については本町が赤字を全額補填してきました。今年度末で高速船の運航が休止し、明石小長フェリーだけが残るという前提の中で、呉市としては現状の便数が妥当という考えでしたが、本町としては住民の声や利用状況を踏まえて12便が必要であると考え、協議を重ねた結果、運航回数は12往復で、両市町の負担割合は1対1としたいと考えています。
委 員	予算が必要な話です。議会できちんと説明し、進めていくべきではないでしょうか。今後はよろしくお願いします。

##### ②スマート海上バスゆき姫の試験運航について

事務局	<資料説明>
議 長	ただいまの説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いします。
委 員	単身赴任で本町へ来られている方から聞いた話を申し伝えます。夜間便は週末に帰ってくる時に大変ありがたいのですが、到着後に港からの交通手段がありません。試験運航の期間だけでも、デマンドバスの事前予約などを考えてもらえたらありがたいと思います。
議 長	移動の継続性ということですね。港間だけ確保するのでは不十分ということで、当然のお話であると思いました。ありがとうございます。

## (2) 協議事項

### ①令和7年度以降の路線バス及び町営コミュニティバス「おと姫バス」の運行について

事務局	<資料説明>
議長	ただいまの説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いします。
委員	デマンド型おと姫バスの100円から200円への運賃改定は、どういう過程で決定されたのでしょうか。
事務局	運賃改定については、前回の協議会で説明させていただき、その後、12月の町議会定例会において議決をいただきました。
委員	わかりましたが、残念に思います。公共交通の要件というのは、安全、正確性、スピードと運賃の安さだと思います。利便性が向上して利用者が拡大した中で、値上げというのは納得がいかないですが、決まったことであれば仕方がないと思います。広島叡智学園の生徒の利用が一番多いと思います。最大1,500人くらいが年間に使用している状況でしたが残念です。
議長	安いに越したことはないというのは皆さん同じような思いがあるとは思いますが。一方で、赤字分は税金で補填せざるを得ない中、苦渋の決断もあるのかとは思いますが。難しいところですが、ご了承いただきたいと思います。
委員	デマンドバスの早朝・夜間時間の拡充については今後検討していくのでしょうか。
事務局	4月以降の利用データを確認した上で、運行事業者と協議したいと思います。
委員	自動運航船の夜間便の時間帯まで拡充できれば良いと思いますが、少なくともフェリーの運航時間に合わせられるような形は目指して欲しいと思います。
事務局	ドライバーの勤務時間との調整も踏まえ、運行事業者と話をしたいと思います。
議長	<p>やはり移動の継続性というのはすごく大事です。私としても、フェリーについてはもう少し遅い時間に運航があればと思いますが、導入しても利用されないということもあります。例えば、江田島市では一時期フェリーを1便遅くしたにも関わらず利用者が少なく大赤字になったというような話も聞いていますので、利用者の生活パターンに合ったサービスにしていく必要があります。</p> <p>陸上交通も海上交通もこの1年程度でドラスティックに交通環境が変わっています。良い方向に進んでいるとは思いますが、これだけ変わると町民としては「また変わったのか」と不安になるかもしれませんので、周知に力を注いで欲しいと思います。特に、お年寄りはかなり混乱されるのではないかと思いますので、多くの方に伝えていただければと思います。</p> <p>他にご意見が無いようであれば、この件については承認いただいたものとして、終わらせていただきます。</p>

### 3. その他

委員	<p>当社のフェリーについて現状をご報告させていただきます。現在2隻使用していますが、どちらも老朽化が進み、特に1隻は30年以上使用している船舶です。毎年安全に支障の無いように修繕等を進めていますが、部品供給に時間がかかったり、部品の製造中止等も聞こえてくる状況になっています。新造船を作るべきではありますが、船価高騰により、とても建造できる状況ではありません。持続可能なフェリーの運航を進めていく上で、建造に関する補助的な施策があれば教えていただきたいです。</p>
事務局	<p>町としても国に要望はしていますが、内海離島の制度については該当が無いというのが現状で、町長も危惧しています。外海ばかり優遇されており、瀬戸内も考えて欲しいということで、陳情している状況です。</p>
委員	<p>町長、議員の方々には、同じ志を持って外に対して働きかけをしていただいていることについて改めまして感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>以前申し上げましたが、船舶の高齢化による現状の輸送サービス、つまり運航回数はいつ途絶えてもおかしくないということだけのご理解をお願いしたいです。こうした危機感だけは繰り返し申し上げておきます。例えば、種子島まで運航していた折田汽船は部品がなくなって、もう何か月も止まっています。別航路があるので何とかなっていますが、私どもについても、いつそういった時代が来るやも知れません。人件費の上昇等もあり、大変経営的に難しくなっていることをご承知いただいて、皆さん方のご助力をお願いしたいです。</p>
委員	<p>船舶の老朽化については、大崎上島町だけではなく県内の他航路においても30年、古いものだと40年を過ぎ限界に近いというお声はいただいており、県としても何ができるかを検討しています。更新には非常に莫大な費用がかかるため、県だけではなかなか難しいですが、一方で更新すれば修繕費あるいは燃費も改善します。また、現行の利用状況に合わせてサイズダウンしたりすることでコストを下げている部分もあるのではないかと思います、こういった事も含めて検討しているところです。併せて、県や市町だけでは難しい問題ではありますので、国に対しても船舶の更新に対しては県における施策提案等で要望しているところであり、引き続き要望していきたいと考えています。</p>
議長	<p>フェリーのサイズの話もありましたが、小さくすると今度は車の積み残しの心配も生じるため、難しいところもあるのかもしれない。</p>

### 4. 閉会

以上